

漁況予報 いわし

第146号

2008年3～4月漁期
(2008年3月14日発行)

＝ 予 報 ＝

過去5年の3・4月漁期の漁獲量
と今漁期の予測量

＝ 概 況 ＝

【まいわし】

主要定置網におけるマイワシ総漁獲量は1月が3トン、2月が8トン(速報値)で、前年同期(1月:17トン、2月:69トン)を下回りました。前年は、2月上旬に相模湾東部の定置網でまとまった漁獲がありましたが、今年はまとまった漁獲は見られませんでした。

佐島地区のまき網は、2月下旬に2ヶ統が8トンを漁獲しましたが、まとまって漁獲したのは1日のみで、前年同期(1月:0トン、2月:11トン)を下回りました。

魚体は、体長17～18.5cmが主体で、1歳魚(2007年級)と考えられます。

しらすの試験操業では、前年に引き続き2～3月に相模湾全体でマシラスが多く捕獲されており、これらの個体が湾内で成長し、夏以降、小羽・中羽マイワシとして漁獲されることが期待されます。

【かたくちいわし】

主要定置網におけるカタクチイワシ総漁獲量は1月が49トン、2月が100トン(速報値)で、低調であった前年同期(1月:5トン、2月:28トン)を上回りました。特に小田原から真鶴の漁場でまとまった漁獲が見られました。魚体は、体長9～11cmの小型成魚が主体でした。

佐島地区のまき網は、1ヶ統が1月下旬から断続的に餌イワシとして漁獲しましたが、2月中旬には漁獲が途絶えてしまいました。一方、三崎のやや沖合では、2月中旬以降にまとまった群れが見られ、トン単位での漁獲が続きました。この漁獲物は、体長12cm以上の大型成魚が主体であったため、鮮魚として出荷されました。

【しらす】

当センターでは解禁に先立ち試験操業を行いました。東部海域よりも平塚、茅ヶ崎などの湾奥部で全長30mm前後の中～大型のカタクチシラスが高密度で分布していました。解禁後しばらくは、湾奥部を中心に大きめのカタクチシラスがある程度まとまって漁獲されるものと考えられます。

また、前年と同様にマシラスが高密度で分布しており、解禁後は大きめのマシラスが高い割合でカタクチシラスに混じって漁獲されるものと考えられます。ただし、マシラスは、カタクチシラスよりも生まれる期間が短く成長が早いので、シラスとして漁獲される期間は短く、解禁後から4月上旬頃までと考えられます。

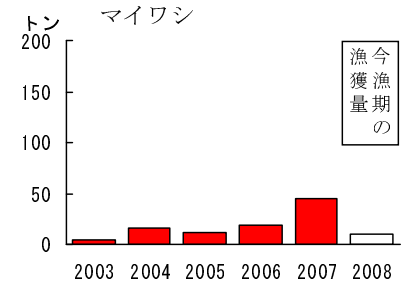
4月以降の盛漁期は、湾外で生まれるカタクチシラスが主体となります。この春シラスの親であるカタクチイワシの大型成魚は低水準であるため、6月までの春漁全体の漁獲量は前年を下回りやや不漁になると考えられます。

まいわし

今漁期は、中羽(1歳魚、2007年級群)が漁獲の主体となるでしょう。

今漁期の漁獲量は、1～2月の県内主要定置網の漁獲量から、定置網を主体に約10トンと予測されます。

*縦軸: 主要定置網+まき網

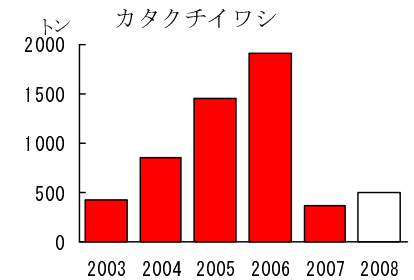


かたくちいわし

今漁期は、小型成魚及び大型成魚が漁獲の主体となるでしょう。

今漁期の漁獲量は、1～2月の県内主要定置網の漁獲量から、約500トンと予測されます。

*縦軸: 主要定置網+まき網



しらす

今漁期は、春生まれのカタクチシラスが漁獲の主体となります。

試験操業の結果から、解禁直後はやや大型のカタクチシラスとマシラスが漁獲の主体となり、徐々にカタクチシラスの本格的な来遊が始まるでしょう。

今漁期の漁獲量は、シラスの親となる大型成魚資源量指数値から、約70トンと予測されます。

